

NO.	証言者	タイトル	立場	解説	時間
1	松村 真砂子	愛楽園のリーダーとなり避難壕づくり	愛楽園で病氣療養中	10・10空襲の時は砲弾が雨のように降り注いできた。リーダーとして年寄りの面倒を見ないといけなかったが、その日一度だけその人たちを置いて一人壕に逃げ込んでしまい呵責の念にかられた。その後はアメリカ軍の捕虜となった。	8分20秒
	嘉数 弘子	愛楽園の子供たちの母親代わり	愛楽園の教師	結婚して子供が1歳になるころ（20歳代）に発病し、愛楽園に入る。教師の経験があったので子供部屋に入り、算数などを教えたり、母親代わりとして面倒を見たりした。	7分24秒
	宮平 カズオ	炊事班と壕掘りの日々	ラッパ隊を発病で除隊	ラッパ兵をして出征していた20代のころに発病して除隊。当時では自殺も懸念され人が付くほど、大きなショックを受ける病氣。生まれ島沖縄の愛楽園に入り、炊事に関わる。空襲で一棟残らず焼かれるなど。	7分28秒
2	平良 清蔵	防空壕のおかげで助かった命	大工見習	愛楽園の工事で大きな療養所を建てる大工の弟子として参加。その数年後、20歳前に発病して愛楽園へ。炊事など、いろんな作業に関わる。10・10空襲で園の建物はほとんど焼ける。英語の達者な人がいたおかげで随分助かった、など。	7分51秒
	伊佐 元長	召集令状時にハンセン病を発病	木材会社勤務	男兄弟は戦死。妹は看護婦で勲章をもらうほど。27歳の時まではとても元気だったので、発病が分かった時は絶壁から落とされるほどのショックをうける。その後愛楽園へ。爆撃でも大変だったが、壕掘りで手足をなくした者も多かった、など。	8分12秒
	伊良皆 ハル	空襲が来たら病人を担いで壕へ	沖縄愛楽園寮長	12歳で発病し、周囲から嫌われ苦労する。22歳の時に愛楽園に入り、懸命に働く。病人の世話をし、空襲のときは壕に避難させる作業をした。	7分13秒
3	安里 ユリ	愛楽園初日から壕掘りに参加	愛楽園で病氣療養中	兄弟は皆ほとんど戦争で亡くなる。結婚後の27、8歳の時に発病して悩んだ末、夫や子供と別れて愛楽園へ。当時ハンセン病は家族から一人でも出たら誰も付き合ってくれないほど嫌われる病氣。愛楽園では壕掘りで土運びをさせられた。空襲の恐ろしかった思いは忘れることができない	2分5秒
	又吉 文	ひたすら防空壕での生活	愛楽園で病氣療養中	家族の中で一人だけ11、2歳の時に発病。その後は周りから遠ざけられ、ずっと一人で自殺未遂もするほど悩んでいた。愛楽園には21歳の時に入る。そこで壕掘りをさせられ、中には壕掘りでケガをしてそこからばい菌が入り、亡くなる老人もいた。	6分35秒
	系数 宝善	愛楽園の復興作業に従事	愛楽園で病氣療養中	16歳の時に愛楽園が設立され、入り、防空壕掘りなどをする。10・10空襲で敵機に攻撃されたがどうにか免れた。米軍の降伏勧告を受けた時、差し違えて死のうと周囲は覚悟したが、病友の冷静な判断で生き延びることが出来た。	9分44秒
4	渡島 悦子	飛行機に追われて飛び込む防空壕	愛楽園で病氣療養中	戦争が始まったので男も女も園の皆で壕掘りをした。出張先で飛行機に追われ壕に避難しようとしたが、入れてもらえなかった、など。	4分38秒
	知花 重雄	防空壕掘の最中に10・10空襲	愛楽園で病氣療養中	トイレも水も飲めない状態で防空壕を掘る毎日だった。5月にはアメリカ軍がやってきて平和になり、食糧事情も良くなった。	6分36秒
	平良 千代	一日中鳴り響く爆撃音	愛楽園で病氣療養中	次から次へと戦闘機がやってきて空襲は1日中続いた。・ 1日に3個のおむすびしか食べる事が出来ず、男の人等は大変苦しい思いをした。食糧事情は深刻で、中には栄養失調で亡くなる人もいた。	7分27秒



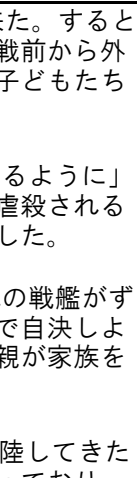
NO.	証言者	タイトル	立場	解説	時間
5	内間 安仁	母と妹が爆弾に	幼年期	当時6歳。11歳を先頭に乳飲み子を含め家族5人、艦砲の中を逃げ回ったが、母、兄、妹は爆弾にやられてしまった。	8分43秒
	小底 秀雄	空爆で親戚の兄弟が犠牲に	幼年期	黒島で一番安全だと思われていた壕で、親戚の若い兄弟が空爆でやられてしまった時の事を思い出すと今でも胸が痛む。戦後の少量難ではソテツばかり食べていた。	5分22秒
	天久 佐信	弾を抱えて爆撃機に乗る人間魚雷の兵隊	鹿児島で病氣療養中	戦争も終わりに近づいた頃、6・7メートルもある爆弾を抱えて鹿屋から沖縄へ向かって飛んでいく爆撃機を見るようになった。兵隊の家族があれを見るとしたらどんな気持ちになるだろうと切ない気持ちになった。	13分4秒
6	松岡 和夫	昭和22年マッカーサー元帥に嘆願書提出	鹿児島で病氣療養中	昭和22年、沖縄がアメリカに占領されたら帰ることが出来ないというので、署名運動をしてどうか沖縄に帰る事ができた。愛楽園は爆弾でできた穴だらけだった。	8分41秒
	大城 義雄	何百発も弾を撃つ米兵	門司海運局沖縄支所	糸満を逃げ回っていて、避難できる壕が探せなかったため豚小屋へ避難した。捕虜になり、抵抗した日本兵に必要な以上に弾を打ち込むのを目撃し、戦争の醜さを感じた。	6分20秒
	大城 見教	兵隊も民間人も同じ壕に避難・負傷者を診察	国民学校4年生	父が医者だったので軍医の手伝いのような事をしていて。最初の頃は南部にいたが捕虜になっては北部に移動した。	8分44秒
7	高良 健二	スパイ容疑の恐怖	県立二中生	ハーモニカを学友と吹いていたら、スパイの暗号と間違われた。学生時代は軍国主義一色で、各中学校の間では自分の中学校から何名が陸軍士官学校や海軍兵学校に入学したかとか競い合っていた。	7分13秒
	金城 静子	避難生活の日々	主婦	祖母の身体が不自由だったため疎開はせずに沖縄に家族4名残った。小さな子供がいたのでひとつの壕にとどまらず、いくつか渡り歩いた後、捕虜になった。	6分50秒
	金城 千代	「女物の着物をくれ」と言った日本兵	主婦	家族と離ればなれになり、具志頭で幌になった2人の息子は破傷風と栄養失調で亡くなっていた。日本兵の2人が戦場では女の着物は縁起物だと言って、身を隠すために女物の着物を貰っていった。	3分14秒
8	又吉 美恵	防空壕堀をした戦争体験記	沖縄師範学校女子部	師範学校女子部予科1年の時に、軍作業が始まった。小禄飛行場での排水溝掘りを始めとし、ガジャンビラで高射砲台の土盛をするなど戦争のために動員され、ほとんど勉学どころではなかった。	7分45秒
	大見謝 英子	一高女合格の喜びが・・・	一高女入学直前	一高女合格の喜びも束の間、米軍が上陸した。避難した南部の壕で迫撃砲で目をやられて、見えなくなってしまった。避難中に手足のない日本兵に水を飲ませてくれとお願いされ、友人と一升瓶に水を汲み、口元においてまた避難した。	5分29秒
	當銘 政一	空腹のやんばる山中彷徨記	小学校2年生	南部から貨物列車で嘉手納まで移動し、徒歩でやんばるへ疎開は厳しいものだった。捕虜になり、砂浜にある仮設の学校で過ごしていると、アメリカ兵がやって来て日本が戦争に負けたと伝えた。8月15、6日ぐらいであった。	12分24秒

NO.	証言者	タイトル	立場	解説	時間
9	吉嶺 全一	母と祖母を守って摩文仁へ	小学校6年生	摩文仁の壕に避難中、食糧探しに出た時、知らずに何度も死体を踏むことがあった。米軍の投降勧告を聞きながら死の恐怖を経験した。	7分9秒
	喜屋武 米子	目の前で父が即死	国民学校3年生	摩文仁へ行った時、妹がお腹がすいたと泣いていると兵隊がやってきて、「継ぎ泣いたらこれで殺しなさい」と父は銃を渡された。そして避難して隠れていると、目の前で父が被弾し、即死した。	5分10秒
	伊波 孝徳	南洋サイパンでの戦争体験	南洋興発附属専修学校	米軍が迫る中、学生たちにも敵前の食糧運搬を命ぜられた。艦砲射撃でほとんど全滅し、生き残った者は手榴弾で自決した。	9分43秒
10	前川 トヨ	疎開先の大宜味村で村民に助けられる	主婦	糸満市の新垣から子どもを連れて北部に疎開した。嘉手納までは軽便に乗り、それ以降は徒歩で五日歩いた。その間行く先々で地域の婦人会の人たちからおにぎりをもらった、など。	6分33秒
	座波 アキ	主人と離れて妊娠5ヶ月で熊本へ疎開	主婦	主人が兵事課にいたので先に疎開に行く事になった。熊本へ着くまでの4日間は潜水艦に追われて死をも覚悟した。疎開先では農家の手伝いをしていた。主人の行方は今も分からない。	7分48秒
	森山 紹一	悔やまれる弟の戦死	南洋興発	サイパンでの生活。爆風で鼓膜をやられ泣き叫ぶ赤ちゃんを日本兵に言われて窒息死させるのを見た。学徒兵に応募した弟が、配属先のテニアンから帰ってきたおり、「国のためにつくせ」と追い返し、今生の別れになった事が悔やまれてならない。	6分29秒
11	牧港 篤三	鉄の暴風	沖縄朝日新聞社勤務	3月、全ての新聞社が師範学校生の掘った首里城近くの壕に移動した。軍の報道配員として徴用され、新聞社のある壕から軍司令部壕へと毎日通った。壕内では印刷機を回して新聞を発行し続けたが、5月25日に牛島中将司令官から解散を言い渡され、首里から避難した。	5分12秒
	外間 博	防衛隊での爆弾運搬、防衛隊召集、暁部隊	与那原の防衛隊	一緒に弾丸等を運んでいた仲間は18才程の子ども達だった。運搬してきた積荷を降ろすのもひと苦労だった。	2分13秒
	平識 りつ子	疎開児童の引率	読谷尋常小学校教師	当時主人は27歳か28歳。一番若いという理由で主人が疎開児童の引率に命令され、家族で疎開船に乗ることになった。対馬丸に乗る予定だったが、生徒達の集合がおくれた為その後の船に乗った。	5分11秒
12	喜友名 豊子	自決した女子挺身隊員、石部隊爆薬運搬	中飛行場で徴用	兵隊同様死んだら放っておかないし、靖国に祭る、ということで、死ぬのは全然怖くなかった。負傷したが、足を切られて助かった。しかし相談も無く足を切られたのがショックで、死んだ方がマシと思った、など。	7分55秒
	高良 鉄夫	防衛召集ドラム缶を鉄兜に白保飛行場の設営	配属将校	506大隊は大部分が補充兵や国民兵の召集なので親子と一緒に居たりする隊だった。戦争が激しくなると、半強制的にマラリヤ地帯に避難移住させられた、など。	4分43秒
	島袋 哲	戦争への絶え間なき問いかけ、尼崎での徴用	岡山大学医学部在学	岡山での空襲、軍事教練の目的など。10・10空襲後、父母の生死が分からなかったが、悲しく思わなかった。家族に兵隊がいないことに肩身が狭かったため、むしろ家族から戦死者が出たなら国のために尽くせたような気がした。	5分38秒

NO.	証言者	タイトル	立場	解説	時間
13	座波 喜美子	忘れられない戦争と疎開	5年生 熊本疎開	祖父が疎開に反対。夜中に隙をみて母子四人で船場に向かうが、途中で祖父に気付かれ、跡取り息子の弟を取られた。疎開先は熊本県。母が働いていた農家の人たちからは親切にもらった、など。	6分29秒
	比嘉 誠春	戦争体験記、 石部隊有線通信隊	農林学校 3年生徴用	島尻のあたりは水が豊富で、アメリカはそれを心得ていて、水汲みしそうな水のあるところは非常に人が死んだ。狙い撃ちだった。夜になると日本兵は急造爆雷を担いで出て行き戦車に突っ込んでいた。	7分28秒
	嘉味田 朝俊	台湾第4部隊での体験	台湾部隊へ召集	下士官候補の終わりごろ、これまでの訓練の成果として、人を刺すよう命じられた。震えながら刺し、帰ってきてても眠れなかった。	3分44秒
14	島袋 房子	戦争体験者の一人として	第一高等女学校	爆撃の中を泊から摩文仁へ避難時の恐怖は半世紀後の今でも忘れられない。米軍の女性の声のアナウンスで投降を呼びかけられた。中には海に飛び込む人もいたが、父が枝の先に禰を付けて投降すると後ろからたくさんの人たちがついてきていた。	4分21秒
	比嘉 ハル	初子の娘を失い断腸の思い	主婦	1才の子供を栄養失調で亡くし、米軍の捕虜になる。	1分23秒
	比嘉 浩	教師の戦争体験	農林高校教師	農林学校の教員教師として生徒を動員して壕掘り等に従事した。全県下の学生は動員され、鉄血勤皇隊と呼ばれた。	5分28秒
15	金城 敦子	教師の戦争体験	教師	夫婦で朝鮮人学校の教師として優遇されたが、敗戦後、女性などはロシア人に捕まるとどこかへ連れて行かれ、一緒にいた人がどんどん減っていった。ロシア軍を恐れて道なき道を逃げ惑った。	5分12秒
	喜友名 朝昭	鉄血勤皇隊員	開南中学校生	米軍の捕虜になり尋問を受けた。18歳から44～48歳くらいまでの人が集められた収容所では、運搬や戦死した米兵の死体処理等の作業に従事させられた。	8分12秒
	瑞慶覧 長徳	役場職員の戦争体験	入隊兵	西原村運玉森が米軍の手に落ちた後、米軍はブルドーザーで道路造りをしていた。それを横目に書類などを壕の奥に隠して家族と島尻へ避難した。避難した具志頭で義兄が死んでいく様子を看取る姉と子どもたちの顔が、今でも夢の中に出てくる。	6分3秒
16	真栄城 昭子	首里から摩文仁へ	家事手伝い	迫撃砲で弟を亡くし、母は行方不明で生き別れとなった。収容所からいろんな場所に手紙を書いたが、返事はなく、その後金武で埋葬されたと聞き、南洋から戻った姉と探しに出かけたが探せなかった。	4分38秒
	大城 英男	役場職員の戦争体験	豊見城村役場勤務	役場の資料を入れている壕掘りをしている時に艦砲射撃でけがを負う。避難する道筋には真っ黒焦げの死体がたくさん転がっており、糸満の名城で艦砲射撃に遭い母と姉を亡くした。	5分26秒
	宮城 幸三郎	真部山から重傷で国頭へ逃避行	兵隊	負傷した兵は集められて仮小屋のようなところに集められた。しかし友軍は負傷した兵が足手まといになると、何も言わずに置き去りにしていった。その後は3、4名で北部山中を逃避行。	7分6秒

NO.	証言者	タイトル	立場	解説	時間
17	金城 政信	徴用人夫と朝鮮人軍夫	東村の製材所勤務	東村で陣地構築用の資材と木炭運搬の重労働に北部から多くの人が徴用され、朝鮮のスイキン隊と呼ばれていた軍夫も投入された。	7分49秒
	仲元 盛功	横須賀海軍水雷学校	運転手助手	横須賀海軍水雷学校での訓練を終え、四国小豆島に配属される。終戦後、沖縄に帰ると荒れ果てた故郷の姿に愕然とした。	7分31秒
	仲地 和雄	私の戦争体験記、監視哨隊員	監視隊員	機械に頼らず、人間の五感を使った監視隊員としての訓練は厳しかった。敵機が襲来した時に、本部に通報したが空襲警報が出なかった。もし信用して空襲警報を出していれば多くの人が犠牲にならずにすんだかもしれない。	5分40秒
18	上原 豊子	チビチリガマ集団自決の様子	読谷国民学校2年生	家族がクリスチャンだったため、アメリカ人に敵意は感じなかった。壕の前で米兵が出て来るように言った時、チビチリガマで自決がはじまったようだ。	2分34秒
	川上 雄善	死の恐怖を生き抜いて	中飛行場の防衛隊	米軍の上陸作戦のための艦砲射撃が始まり、家族に最後の別れを伝えに言えに戻った。子どもを抱き、妻に別れの言葉を伝えたが、年老いた両親には言えなかった。	4分34秒
	中村 文子	疎開先での体験	川崎大島国民学校教師	住んでいた川崎から熊本へ疎開する出発2日前に空襲があり、準備していた荷物や家財道具が全て燃えてしまった。	6分48秒
19	兼城 賢清	満州引揚の避難体験	満州開拓団	満州開拓団として大陸に渡ったが、終戦直前に兵隊に召集された。敗戦後はソ連の捕虜となった。	7分21秒
	長嶺 由樽	東村有銘への避難体験	国民学校5年生	食糧不足で飢え死にした住民を目撃し、戦争時の人間の薄情さ異常さを強く感じた。	5分9秒
	宮里 真厚	少国民の戦い、乙羽岳燃ゆ	国民学校5年生	米軍上陸の知らせを受けて、本部から今帰仁を逃げ惑い、精糖工場あたりで米軍の偵察隊を間近に目撃して恐怖におののく。	5分49秒
20	小橋川 直	ペルー二世の従軍体験	兵隊(華南作戦参加)	仏領印度支那(ベトナム)で歩兵として従軍し、終戦を迎えた。英国軍の捕虜になり、タイの飛行場での作業に従事させられたが、日本の軍隊よりは厳しくはなかった。	6分36秒
	城間 期一	学徒隊の一員として	鉄血勤皇隊	首里から島尻へ移動中の壕内で、米軍の爆撃により約50人の日本兵の爆死を目撃した。最後まで生き残ったのは2人だった。	5分13秒
	新垣 栄一郎	無線操作員として	首里受信所操作員	通信員として従軍し、アメリカの短波放送から日本軍の不利な戦況を知る。米軍が首里に接近すると通信機器を全て破壊し、島尻へ撤退した。	5分44秒
21	比嘉 重友	砲兵隊として	鉄血勤皇隊	緊急学徒勤労働員工作要項により卒業が早められ、東風平の野戦病院に配属された。伝令要員として、急造爆雷を持って敵襲突破の命令を受けた。	7分8秒
	與座 章健	鉄血勤皇隊員を除隊して	県立一中生	食糧不足のため鉄血勤皇隊を除隊になって、家族と共に島尻へ避難した。	7分52秒
	大城 勲	軍国少年として	県立一中生	卒業式の日に入隊し遺書をしたためた。当時は第一線要員に選ばれたことを誇りに思う軍国少年であった。南部の地理に詳しいため、首里から島尻への道案内要因となった。	5分9秒

NO.	証言者	タイトル	立場	解説	時間
22	大城 栄進	大宜味村防衛隊	伊江島で工場経営	大宜味村の防衛隊員として壕掘などに従事した。米軍の北進にともない、山中で住民と3ヶ月の避難生活の後に下山した。	6分9秒
	金城 光栄	糸満防空監視哨のきろく	防空監視所員	米軍の慶良間上陸後に糸満住民に食糧を配布したり、避難誘導等に従事した。	7分19秒
23	安谷屋 ヨシ子	第3外科壕の看護婦として	陸軍病院看護婦	米軍の黄燐弾を被弾したが一命を取り留めた。糸満の伊原あたりをさまよっている時に米軍の捕虜となった。	4分15秒
	宮里 美恵子	集団自決から生き残って	主婦	玉砕するから集まれと伝達が来たが、集合場所にはほとんど誰も集まらなかった。仕方が無いので防空壕に戻って一晩を過ごしたら、何百人ものアメリカ軍に囲まれていた。	4分22秒
	柴田 収二	阿嘉島での切り込み隊	通信隊	広島から極秘裏に出航し、沖縄へ到着。阿嘉島へ通信小隊長として配属された。慶良間海峡は米軍の激しい攻撃を受け、風前のともし火であった。3月26日ついに牛島司令官への玉砕電報を打電すると、「奮闘を祈る」との返信があった。	8分8秒
24	大浜 徳一	平得飛行場の近くに住んで	国民学校生	飛行場建設の様子。避難所でマラリアにかかり家族2人を失う。	3分25秒
	多和田 ノブ	生き地獄の島尻	主婦	戦闘で父と母を亡くし、幼子を抱えて逃げ回る。捕虜になってどうにか生き延びたが口では説明できない程つらい日々であった。	3分11秒
	比嘉 定清	北部への避難	農兵隊	若い男の人は殆ど兵隊に取られたので一時的に農兵隊を結成した。避難の途中で老若男女の人等、民間人の被害が出た。	5分35秒
25	野原 カメ	愛児の死	主婦(農業)	薬も分けてもらう事はできず、愛児は明け方亡くなった。甥に埋めてもらったが、その甥も宜野座の野戦病院で亡くなった。	2分50秒
	中村 キク	父母と妹、弟を戦争で亡くして	女子師範学校	戦争で10人いた家族が4人だけになった。	6分32秒
	銘刈 春福	義勇隊員での体験	玉城国民学校	隣にいた人が生きてるか死んでいるか誰もかまわない、それが戦争というものだと実感した。佐藤伍長という人にとても可愛がってもらったが、米軍にやられて亡くなってしまった。	4分57秒
26	平良 新亮	台湾で補充兵になる	陸軍第四部隊	台湾で軍属として徴用され通信隊に2~3年いた後、除隊になったが、すぐに兵隊として召集された。	4分6秒
	与那覇 カ子メガ	マラリアで三女を亡くす	主婦(農業)	食べるものも無く栄養失調で死ぬ者がたくさん出て、殆どの人がマラリアにかかった。医者もおらず、三女もマラリアにかかり死亡した。	3分39秒
27	宮城 秀一	三中鉄血勤皇隊として、喜如嘉収容所	鉄血勤皇隊	家族はみな山へ避難しているの時に学校から召集令状が届いた。戦場で、母親を亡くした赤ちゃんのためにお米を分けてあげたら、経節の塊をもらい、人間の暖かさを感じる事ができた。	4分21秒
	根神 よし子	津堅島での補助看護婦の記録	高等女学校	補助看護婦として研修を経て戦地に向かったが、戦場では習ったものは殆ど役に立たず、薬さえないありさまだった。	5分3秒
28	阿波根 昌鴻	十・十空襲、捕虜になり慶良間島での生活		伊江島で捕虜になり慶良間へ移された。しかし食糧不足がひどく、石川にある民政府へ渡嘉敷村長と陳情しに行き、どうにか食糧を手に入れることができ、慶良間にいる住民は飢えを免れた。徴兵され戦死した一人息子の死が、平和運動をするきっかけとなった。	45分

NO.	証言者	タイトル	立場	解説	時間
29	VHS	やーさん ひーさん しからーさん ~集団疎開学童の証言	もう一つの沖縄戦。それは、国と日本軍との命令で危険な海をわたり、知らない土地へ集団疎開させられた引率教師と学童たちとの戦いである。米軍の魚雷攻撃で、犠牲になった対馬丸の学童たち。攻撃を逃れた学童たちの九州での疎開生活も、日々、苦難の連続だった。		41分
30	DVD	【通常版】			
31	DVD	やーさん ひーさん しからーさん【ダイジェスト版】	〃		19分
32	VHS	そしてぼくらは生き残った	米軍撮影の記録映像。捕虜になった住民の収容所での生活の様子が写されている。		60分
33	DVD (DVD-RAM)	「強制集団死(集団自決)」 に関わる証言映像	<p>① チビチリガマ集団自決の様子（上原 豊子）……避難したチビチリガマに米軍が投降勧告に来た。すると集団自決が始まり、家族同士が殺しあう惨劇を目の当たりにする。元々クリスチャンであったため、戦前から外国人と接する機会があり、噂にあるように米兵が住民を虐殺するとは思っていなかった。母は父から子どもたちを守るようにと言われていたので、必死で守ってくれた。</p> <p>② 集団自決から生き残って（宮里 美恵子）……避難した壕に「自決するから忠魂碑前に集合するように」と勧告が来た。行ってみると砲撃が激しかったので誰も来なかった。米軍の捕虜になってから米軍に虐殺されると思い、どうせ自分たちは死ぬのだから他の知り合いの人たちがいるところへ行かせてくれとお願いした。</p> <p>③ 集団自決に反発し生き残る（上洲 幸子）……山の上から海を見た時、水平線いっぱい米軍の戦艦がずらりと並んでいるのを見て生きた心地がしなかった。母親がネコリン（殺鼠剤）を飲んで家族みんなで自決しようとしたが、死にたくなかったので説得してどうにか免れた。またその後山中であった友軍兵に、母親が家族をみんな殺してくれとお願いしたが断られた。</p> <p>④ 集団死の現場にて（宮城 恒彦）……26日の早朝に、壕の中に子連れの人々が来て米軍が上陸してきたと言った。そこで壕にいた校長先生が皆で自決しようということになった。1人の教師が手榴弾を持っており、姉とその教師の間で爆発させたため、二人だけが犠牲になった。収容所に入っている人たちが、米兵はやさしいというのを聞いて捕虜になることを決めた。</p> <p>⑤ 集団死の地獄を生きて（中村 八重子）……軍が島に駐屯してからは、陣地壕作りに動員された。男手はみんな南方に行っており、女と子どもしかいなかった。26日に米軍が上陸し、夕方から激しい砲撃が始まった。山に避難し、みんなで自決しようとしたが、何も道具がなかったので、首を絞めて死ぬしかなかった。</p> <p>⑥ 渡嘉敷島での女性から見た戦争（内原 静子）……子どもを連れていたため、避難した壕では、子どもが泣いたりするので嫌がられた。ウンナガーラに避難した時に、捕虜になると虐殺されると聞き、自決しようと思った。そこで自分の子どもも殺してくださいと他の人をお願いした。捕虜になり座間味島へ行った後、島に残りたいところがスパイ容疑で殺されたことをあとで聞いた。</p> <p>⑦ 渡嘉敷島での戦時日記（崎間 義郷）……23日に艦砲射撃があり、校長と二人で書類を壕に移す作業をした。避難したウンナガーラに友軍が来て、北山（ニヤマ）へ移動するように言われた。そこに着くと親戚同士が円になり、防衛隊が持っていた手榴弾で自決し始めた。避難している最中には、着弾が遠いのか近いのかを聞き分けられるようになった。</p>		43分31秒